



柏市公設総合地方卸売市場

柏市公設総合地方卸売市場運営審議会 ～令和6年度第1回運営審議会～

日時：令和7年3月28日（金）10：30～

会場：柏市場 管理棟 2階会議室



目次【Agenda】

No	内容	ページ
1	柏市場の状況	2～10
2	基本計画策定の趣旨・目的	11
3	検討の進め方	12
4	検討における基本方針	13～21
5	基本計画策定の流れ（2か年）	22
6	WG等の実施状況	23
7	各部門コンセプト・必要機能について	24～27
8	次回の予定	28

1. 柏市場の状況



■ 機能

柏市場は市民への生鮮品の安定供給や、生産者支援、学校給食への納品、現在は約800人の雇用の受け皿となるなど、**市民生活において重要な役割を担っている。**

面積・用途	80,058㎡ / 準工業地域
部門	青果部, 水産物部, 花き部, 関連事業者
事業者数	81事業者
労働者数	760名※うち柏市民387名（令和6年8月1日時点）



市場内での青果物をパッケージする様子

生産者
支援

農産物の市場流通
農家の高齢化に伴う出荷支援

市民へ
の供給

おっかさん
ベルクス
京北スーパー
など

教育
給食

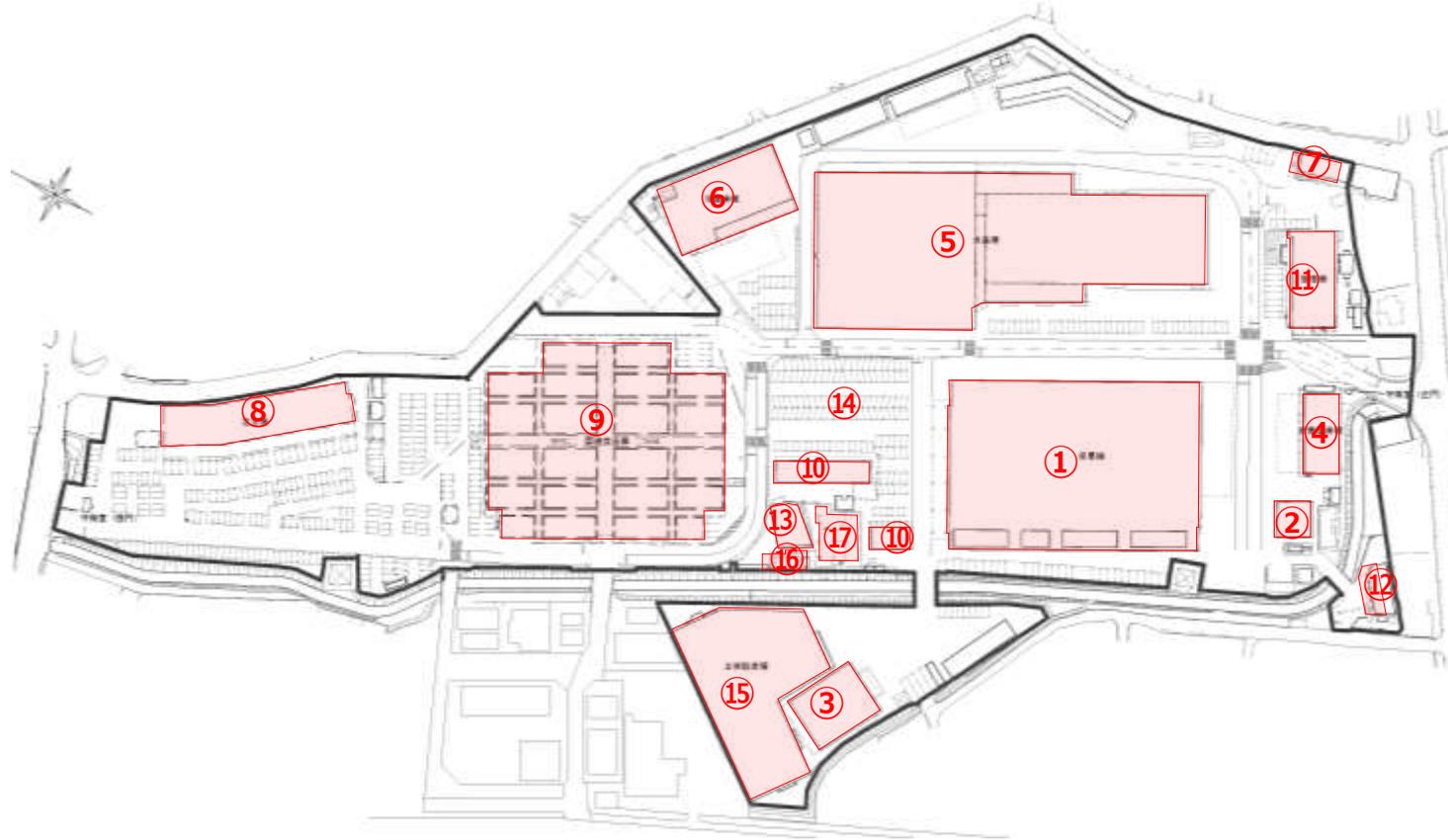
小学生の社会科見学受入
学校給食への納品

1. 柏市場の状況



■ 老朽化

施設の老朽化が進行しており，再整備が必要な状況。



部門	施設名	構造	延べ面積	築年数	改修の有無 ※1
青果部	① 青果棟	鉄骨造	6,800㎡	53年 (一部39年)	耐震改修済み
	② 青果保冷库	鉄骨造	207㎡	39年	
	③ 旧バナナ発酵室	鉄骨造	677㎡	32年	
	④ 青果倉庫棟	鉄骨造	595㎡	49年	耐震改修済み
水産部	⑤ 水産棟	鉄骨造/SRC造	9550㎡	53年 (一部34年)	
	⑥ 冷蔵庫棟	鉄骨造	1,378㎡	31年	
	⑦ 加工設備	鉄骨造/プレハブ	413㎡	32年	
花き部	⑧ 花き棟	鉄骨造	1,215㎡	8年	
関連	⑨ 関連棟	鉄骨造/RC造	9,822㎡	47年	
	⑩ サービス店舗	プレハブ	480㎡	20年	
管理	⑪ 管理棟	鉄骨造	1,407㎡	53年	
その他	⑫ 発泡スチロール処理施設	鉄骨造	222㎡	36年	
	⑬ 廃棄物置場	鉄骨造	229㎡	41年	
	⑭ 駐車場		22,849㎡		
	⑮ 立体駐車場	鉄骨造	8,305㎡	5年	
	⑯ 浄化槽		—		
	⑰ 排水処理施設		—		

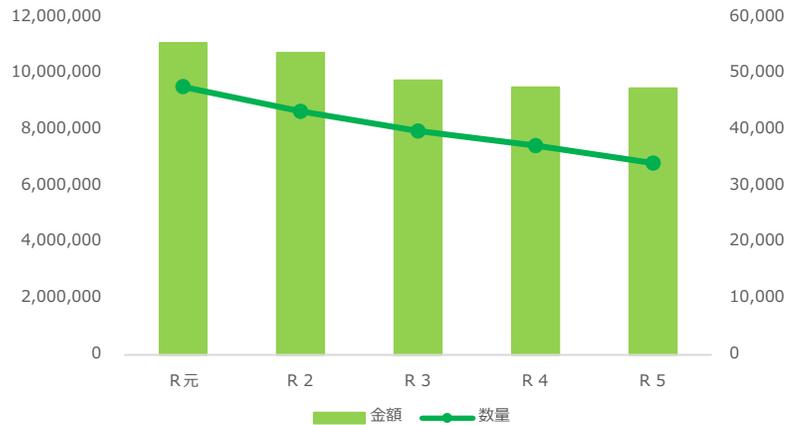
1. 柏市場の状況



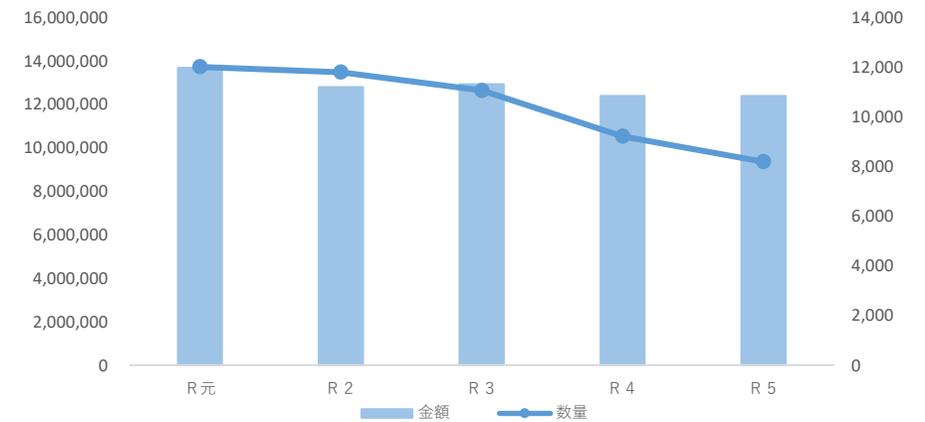
■ 取扱高

施設の老朽化が著しく、ニーズの変化に対応していない非効率な施設となっていることもあり、取扱高は減少傾向にあり、**活性化が必要である。**

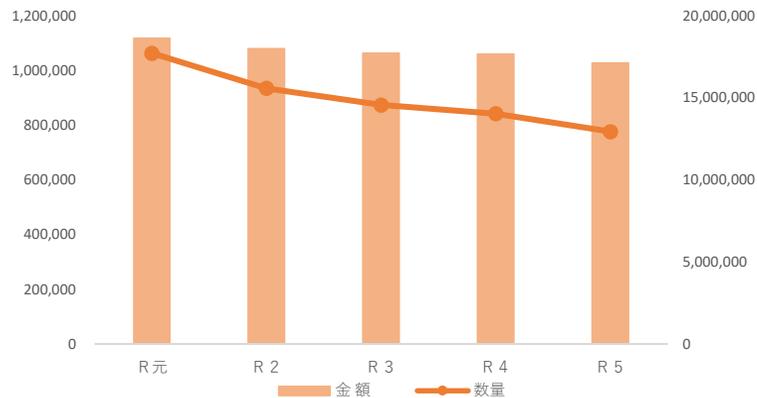
<青果部>



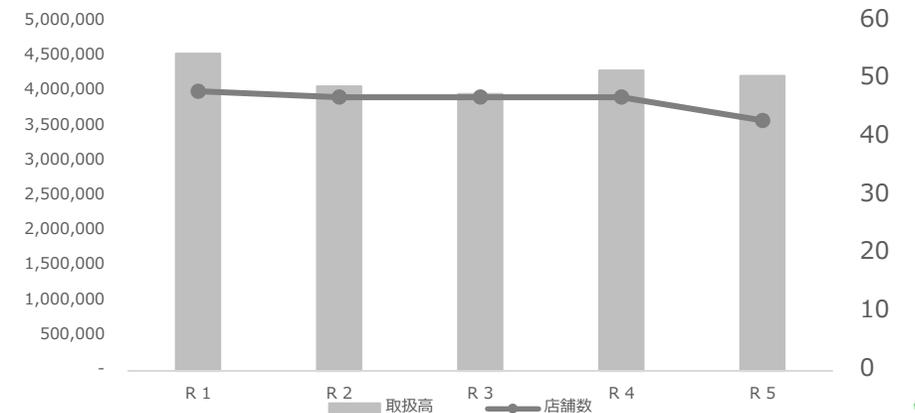
<水産物部>



<花き部>



<関連事業者>

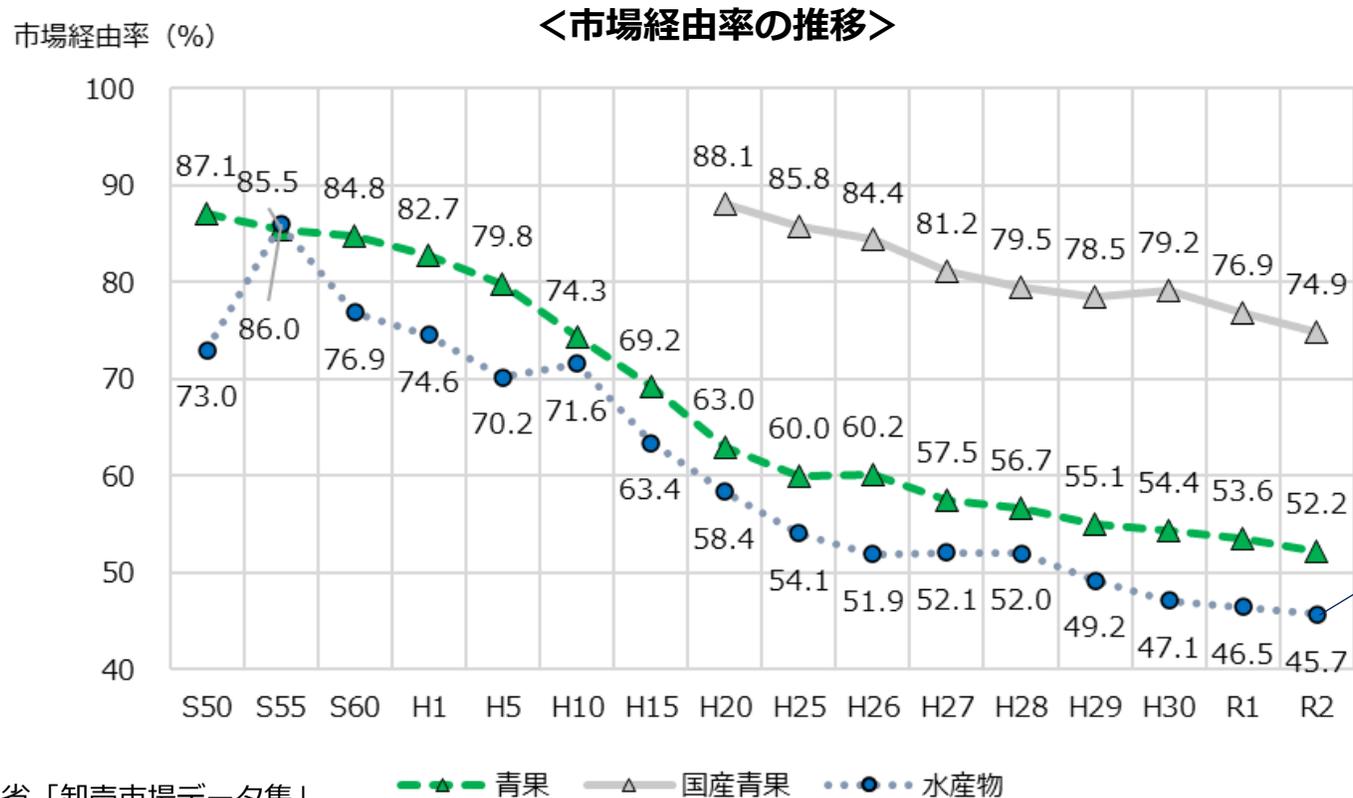


1. 柏市場の状況



■ 市場内・外流通の推移

卸売市場の経由率は年々減少傾向にあり、直近では青果が52.2%、水産物が45.7%と半数程度まで減少している。ただし、国産青果が74.9%で水産物も自給率を鑑みると、国内の生鮮品の流通の核はいまだ卸売市場にあり、市場外流通の主は加工品や冷凍品、輸入品といった、定量・安定供給できる商品の増加に起因している。



※農林水産省「食料需給表」より、食用魚介類自給率は60%程度であるため、国内の生鮮の水産物に関しては多くの割合が市場流通によって流通していると推察される

1. 柏市場の状況



■ 立地優位性

柏市場は柏 I C や柏の葉キャンパス駅に近く、国道 16 号や県道 47 号に近接しているなど事業用地として高い優位性がある。また、駅前や市場周辺には住宅も多く、人手を確保しやすい環境にある。



■ 開発事業者ヒアリング

- 柏 I C より南で、呼塚交差点より北のエリアは事業用地として高いニーズがある。
- 国道への直接の出入り口がなく、搬入出路として道路付けが良い。

■ 場内事業者ヒアリング

- 集出荷の中継拠点になりうる。
- 柏市場の立地は、加工等の担い手が集めやすく魅力的な場所。

1. 柏市場の状況



■ 立地優位性

当該市場と隣接する4地域の人口は、柏市全体の13.1%、世帯数では12.1%を占めており、柏市内でも人口が集中している、駅からも徒歩圏内でバスも複数路線あり、労働者確保のための交通アクセスもよい。

	人口	世帯数
柏市全体	437,235	208,928

大字町丁	人口	世帯数
①大室	9,231	3,941
②花野井	12,028	5,484
③若柴	15,911	6,795
④松葉町	11,071	5,212
計	57,472	25,373
(構成比)	13.1%	12.1%

柏市大字町丁別住民基本台帳人口（R6.8）をもとに作成



1. 柏市場の状況

■ 立地優位性

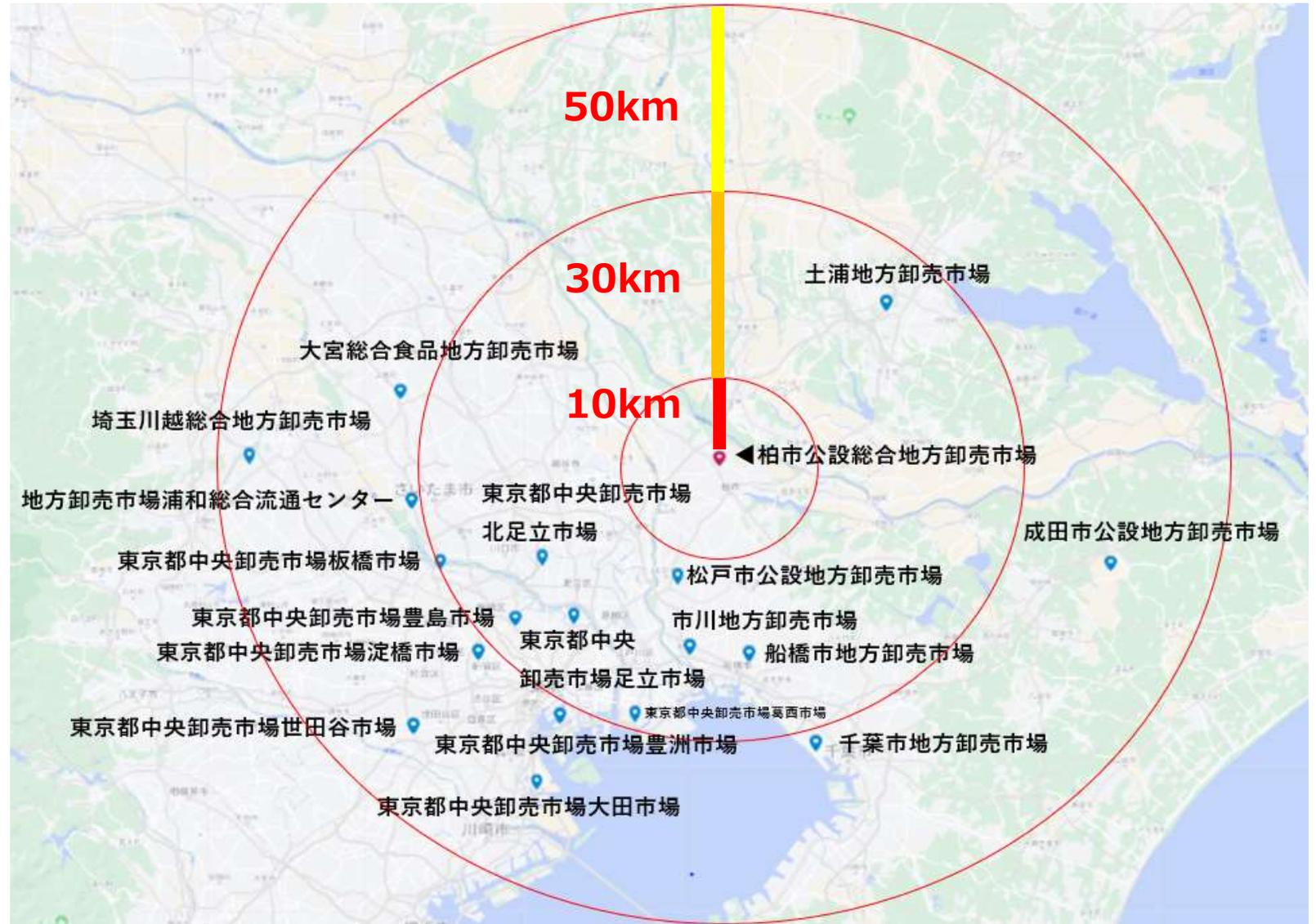
柏ICに至近だけでなく、**常磐道**あるいは**東北道**、東北縦貫道を経由して、北関東や東北などのアクセス性に優れ、**渋滞が発生しやすい都内に入らずアクセス可能**で集出荷両面での利点がある。



1. 柏市場の状況

■ 立地優位性

市場から北西～北東方面には大規模な市場が少ない反面、首都圏という立地から南側には多数の市場が存在し、立地条件を活かした差別化する戦略が立てやすい環境にある。



1. 柏市場の状況

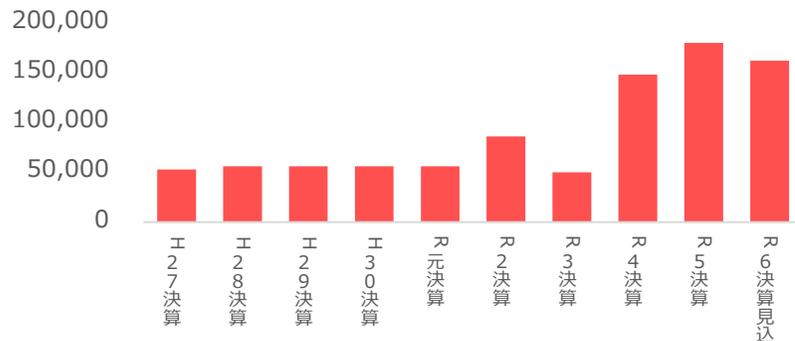


■ 市場会計

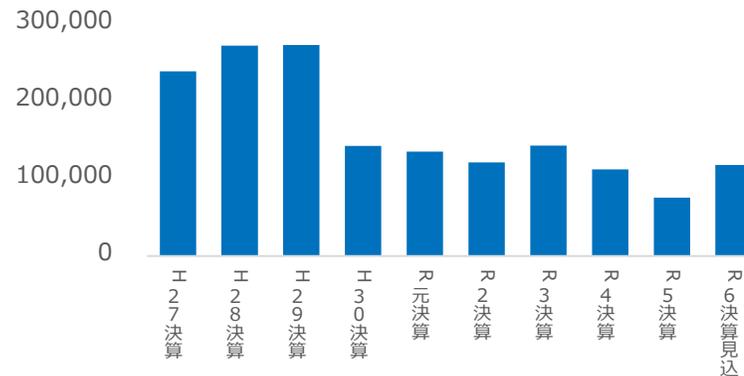
施設の修繕費の増加等により、繰越金が減少し、一般会計からの繰入金が増加している市場会計は厳しい状況にある。支出を減らし、収入を増やす取り組みが必要となっている。



一般会計からの繰入金の推移



翌年度への繰越金の推移





2.基本計画策定の趣旨・目的

柏市公設総合地方卸売市場（以下、「柏市場」という。）はそのアクセスや立地環境の良さなどから、市民への生鮮品の安定供給や、現在は約800人の雇用の受け皿となるなど、**市民生活において重要な役割を担っている。**

一方、開設から50年以上が経過し、施設や設備の老朽化が進み、その**再整備は喫緊の課題**である。また、ライフスタイルや物流・流通構造の変化など、近年卸売市場を取り巻く環境は大きく変化しているが、柏市場はこれらの変化に十分に対応できていない部分もあることなどから、その取扱数量は減少傾向にある。

そのため、市場の再整備に当たっては、このような**環境の変化や時代のニーズを的確にとらえ、市場の活性化に繋がる取り組みを進めていく必要がある。**

場内事業者へのアンケート調査などからは、**取扱品の品質確保のための温度管理や物流面での機能強化**を求める声が多く寄せられており、また、市民アンケートなどからは**一般消費者の来場機会の拡大など、消費者・市民に親しまれる市場化**を期待する声が多く寄せられており、再整備の検討の中でもこれらの声に対応していくことが求められている。

また、再整備を進める上では、持続可能性の観点から、**場内事業者・柏市の双方の負担を抑制する取り組みも重要**であり、民間ノウハウや資金を活用した、取引拡大に繋がる施設整備や、立地環境を活かした新たな収入源確保に繋がる市場用地の有効活用といった観点の検討も必要となる。

今回の業務では、将来柏市場が有すべき施設の種類や、規模、機能等及び事業手法、市場用地の在り方や新たな活用方法等を更に具体化するため、卸売市場の再整備及び高度化・複合化を含めた市場用地活用の計画等の検討を行う。

3. 検討の進め方



検討・協議する視点を変えながら、**柏市場の未来**について話し合いをしております。
各部門、柏市場全体、柏市全体それぞれの視点からご意見を頂き、それを意見集約し合意形成を目指してまいります。

■ 検討会のイメージ



4. 検討における基本方針



開設主体

■ 柏市が開設者として「公設」を維持

公正かつ安定的な業務運営のもと、安全安心な生鮮品の供給や生産者支援等の公共的機能を維持していくため、引き続き「公設」とする。



柏市場の品物が納められている市内量販店



小学生の社会科見学



卸会社の集荷支援（五條谷にある集荷所）

4. 検討における基本方針



活性化に繋がる再整備

- 物流の改善や品質管理等の機能強化
- 消費者・市民に親しまれる市場化

市場の活性化に向けて、現状のままの施設を再整備をするのではなく、必要に応じた物流の改善や品質管理等の機能強化を行う。また、一般消費者への販路拡大等の消費者・市民に親しまれる市場化を目指す。

■ 過年度調査でのアンケート結果

◆ 各部門共通の主要事項

「コールドチェーンの確保」 「荷捌き施設の拡充・強化」 「一般消費者への拡充」

■ 過年度調査での市民アンケート結果

◆ 一般市民の利用を拡大するために期待される取組（上位項目）

- ・ 一般市民向けイベント等の開催頻度を増やす 54.6%
- ・ 利用の仕方や魅力を伝えるHP等の充実 54.2%

再整備より先行して、親しまれる市場化に向けて
令和6年度より**一般開放**を実施



「柏市場」を利用したことがありますか。（n=197）

4. 検討における基本方針



一般開放実施の様子

開催ポスター及び令和6年度実施時の写真



6月



10月



12月



3月開催の一般開放は、青果物及び花きの出荷者である千葉大学の環境健康フィールド科学センター直売所「緑楽来(みらくる)」様ご協力の元に特設販売を実施

4月開催予定の一般開放は、青果物の出荷者であるJAいちかわ田中経済センター様及びJAちば東葛柏地区経済センター様ご協力の元に特設販売を実施予定

4. 検討における基本方針



整備範囲

■ 全体整備を基本

一部建替は既存施設がベースとなるため、動線や通路幅の改善が限定的となってしまう、理想的な物流動線・機能配置が困難であり、機能強化等を効率的に進めることが出来ず、新たな収入源の確保に向けたスペース等の創出が難しい。市場機能の改善・強化を効果的に図るためにも、全面建替えを基本とし、建て替えの順序等についてはこれまでの整備状況や老朽化の進行度合を考慮して検討する。

参考：川崎北部市場「川崎市中央卸売市場 北部市場機能更新に係る基本計画」より

- 市場機能の改善・強化を効果的に図ることができる
⇒ 一部建替は既存施設がベースとなるため、動線や通路幅の改善が限定的となる
- ローリング工事の自由度が高く、工期短縮を図りやすい
⇒ 一部建替は、既存施設の位置が制約となり工事の効率が下がる
- まとまった余剰地を捻出しやすい
⇒ 一部建替は、既存施設の存在が制約となり、まとまった余剰地の捻出が困難
- 着工前の調査に要する時間・経費が最小限に抑えられる
⇒ 一部建替は既存施設の長寿命化を要するが、棟ごとに施工者・施工方法が異なるため、全施設の構造や劣化具合を精査し、長寿命化・高機能化計画をそれぞれ立案していくのは困難であるとともに多大な時間と経費を要する

4. 検討における基本方針



立地場所

■ 現地建替えを基本

- 周辺には市場関係者の事業所等が集積
- 早期の移転整備が可能な市所有の適地がない
➔これから移転候補地を探すとすると時間も費用も掛かる
- 柏市場の現立地はアクセスが良い
- 現在の立地環境を活かした新たな収入源の確保
- 取引拡大等の市場の活性化に向けた機能強化
➔集出荷や買出し人の利便性がよく、親しまれる市場化に向けて効果的な場所に位置する

※ローリングに際しては、平面駐車場や周辺土地など高度化されていない場所を活用し場内事業者の事業継続に最大限配慮する。

参考：京都市場でのローリング



4. 検討における基本方針

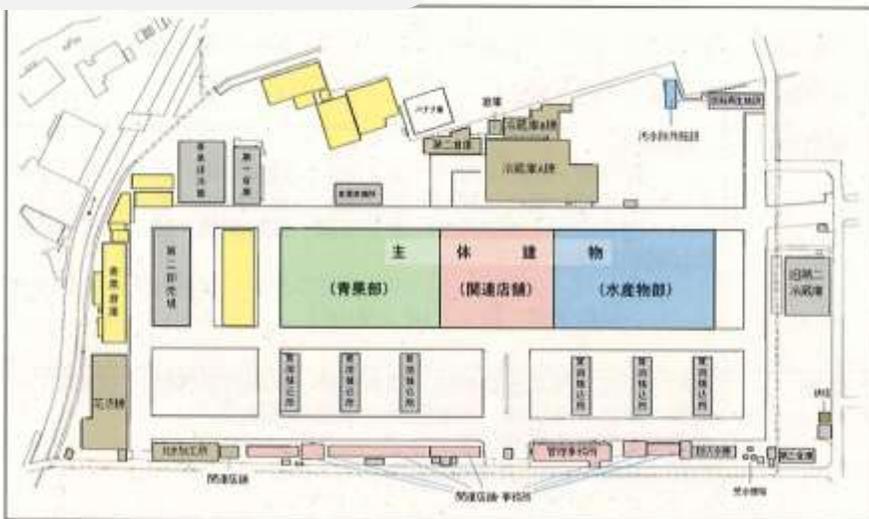


再整備に伴う柏市・場内事業者双方の負担増抑制への取り組み①

- 市場規模の適正化
- 施設の「集約化・高度化・複合化」

整備費・維持管理費の抑制につながる，目標の取り扱い規模に応じた市場施設を適正化を行う。また，現在の立地環境を活かした新たな収入源の確保（企業誘致等）に向けた用地・スペースの確保に向け，集約化・高度化・複合化を基本とする。

参考：富山市場の整備事例



水産棟及び青果棟で約70%に延床面積を集約

4. 検討における基本方針



再整備に伴う柏市・場内事業者双方の負担増抑制への取り組み②

- 施設・用地・スペースの有効利用
- 開発事業者と連携した整備手法（PPP/PFI）の検討

柏市・場内事業者双方の負担の増加（事業費や使用料）を抑制するために、集約化・高度化・複合化して創出された用地・スペースの有効活用を検討する。用地・スペースの活用方法は、土地代等の収入だけでなく、市場の活性化や税収・雇用などの視点から総合的に検討する。

参考：尼崎市場の検討状況



○ 尼崎市公設地方卸売市場の「今後のあり方」基本方針（令和2年3月策定）

（基本姿勢）

これまでの卸売市場の形態や慣例にとらわれることなく、市場の経営力強化や運営の適正化等に取り組み、環境の変化に対応できる生鮮食料品等の市場を目指す。

（方針）

- 1 現敷地において市場施設を適正規模に集約整備
 - ・ 適正な事業者数や取扱高に応じた規模とする。
 - ・ 市場敷地については、市場経営力の強化や税収増、雇用創出等に資する施設などの誘致を目指すことにより、市場及び市への貢献につながるような活用を図る。
 - ・ 老朽化対策等に係る経費の捻出が最大の課題となるため、市場敷地の活用など資金調達、経費削減を図り、市の負担を軽減し、安定して持続可能な市場を目指す。
- 2 市場経営力の強化及び市場運営の適正化
 - ・ 新たな業態の誘致を図り、連携することで、集荷力の向上、販売力や集客力の強化などに結びつけ、また、販路拡大や効率化に取り組む。
 - ・ 民間のノウハウを活かして市場の活性化等に取り組み、安定した市場収入を確保する。

4. 検討における基本方針



防災機能の強化

■ 災害時の支援物資の拠点としての機能強化

支援物資の関連業務と市場本来の業務が併存・同時進行できる環境を確保し、柏ICに近く国道16号や県道47号に近接しているなどの立地優位性や、大型トラック向けの動線等を活かして災害時の支援物資の拠点としての機能を発揮できる体制を検討する。

参考：川崎北部市場の検討状況

(3) 災害時の支援物資の拠点としての機能の強化

北部市場は、「大型トラック向けの動線がある」、「荷捌きに必要なフォークリフト等の資機材を確保しやすい」、「全国中央卸売市場間の協定により物資を集めやすい」など、災害対応に適した環境等があることから、神奈川県から「広域物資輸送拠点」^(※5)に指定されているとともに、本市においても「市集積場所」^(※6)として位置付けています。

一方で、これらの位置付けは開場時に想定されていたものではなく、社会情勢が変化する中で生じたものであるため、「支援物資の保管・荷捌きに係る業務と、早期復興に必要な食品流通業務（卸売業者等の本来業務）の併存・同時進行」や「電気等のインフラが長時間途絶えた中で支援物資の荷捌き等を行う環境の確保」など、支援物資の取扱いに関する課題があります。

そのため、機能更新を契機として、支援物資の関連業務と市場本来の業務が併存・同時進行できる環境の確保や市場関係者との災害時における対応方法の見直し、非常用電源設備等の機能強化等が必要であると考えています。

(※5) 広域物資輸送拠点…国のプッシュ型支援による物資の受入拠点。『神奈川県災害時広域受援計画』により位置付けられており、現在、川崎市内では、北部市場のみが指定されている。

(※6) 市集積場所…災害時において、他都市から救援物資の受入れや、調達物資等を大規模に集約するための場所。現在『川崎市地域防災計画』において、川崎港公共ふ頭、北部市場、等々力緑地、南部市場を位置付けている。

「川崎市中央卸売市場北部市場機能更新に係る基本計画」より

(6) 災害時の支援物資の拠点機能について

これまで述べたとおり、市場機能と災害時における物流機能との親和性の高さを踏まえ、今回の機能更新では、災害時の支援物資の拠点としての機能強化を行うこととしています。

具体的には、災害時において、支援物資の関連業務と市場本来の業務が併存・同時進行できる体制を目指し、原則として、卸売市場エリアでは通常の市場機能を、市場機能連携エリアでは災害時の支援物資の拠点としての機能を果たすことで、両エリアにおける相乗効果を生み出せる体制を構築するものとします。

そのため、市場機能連携エリアでは、災害時に、一時的に支援物資拠点としての活用がなされる可能性を考慮し、市との災害時における連携協定の締結等を図るほか、支援物資拠点として必要なスペースの確保や施設・構造等についての配慮を行うものとします。

なお、卸売市場エリアにおいては、市場の本来業務の支障とならない範囲で支援物資の集積スペースを確保したり、市場の荷と支援物資の共同配送等、機能面における連携を図るなど、両エリア（市場敷地全体）で災害時の支援物資の拠点としての機能を発揮できる体制を確保するものとします。

4. 検討における基本方針



市場再整備及び用地活用における基本方針のおさらい

これまで説明した市場再整備及び用地活用における基本方針について、要点を以下のとおり整理する。

開設主体

- 柏市が開設者として「公設」を維持

活性化に繋がる再整備

- 物流の改善や品質管理等の機能強化
- 消費者・市民に親しまれる市場化

再整備に伴う柏市・場内事業者双方の負担増抑制への取り組み

- 市場規模の適正化
- 施設の「集約化・高度化・複合化」
- 施設・用地・スペースの有効利用 → 負担増抑制に加え、集荷力・販売力強化等市場活性化の視点からも検討
- 開発事業者と連携した整備手法（PPP/PFI）の検討

防災機能の強化

- 災害時の支援物資の拠点としての機能強化

整備範囲

- 全体整備を基本

立地場所

- 現地建替えを基本

5.基本計画策定の流れ（2か年）



No	項目名	令和6年度												令和7年度											
		R6.4	R6.5	R6.6	R6.7	R6.8	R6.9	R6.10	R6.11	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	R7.8	R7.9	R7.10	R7.11	R7.12	R8.1	R8.2	R8.3
1	市場内関係者のワーキンググループ開催	■																							
2	現状と課題の整理																								
	市を取り巻く経済環境，市場の現状・課題認識（内部外部環境分析）			■	■	■	■	■	■	■	■	■													
	立地環境，市場施設・設備状況，法的規制の整理			■	■	■	■	■	■	■	■	■													
	施設利用状況調査			■	■	■	■	■	■	■	■	■													
	市場関係者アンケート調査			■	■	■	■	■	■	■	■	■													
	補助金の整理，市場会計分析																								
3	本市場の将来像及び再整備の方向性の作成																								
4	目標取扱数量及び金額の算定																								
5	必要機能の検討																								
6	市場施設規模の算定																								
7	動線計画（案）の作成																								
8	市場用地活用の方角性の作成																								
9	事業手法の整理及び評価																								
10	財政収支予測及び経済波及効果の算定																								
11	リスク分担の検討																								
12	整備スケジュール（案）の作成																								
13	施設配置（案）の作成																								
14	買出し人ヒアリング																								
15	プレサウンディング調査																								
16	マーケットサウンディング調査の実施																								
17	柏市公設総合地方卸売市場運営審議会開催																								
18	パブリックコメントの準備及び対応																								
19	基本計画の取りまとめ（最終）																								



6.WG等の実施状況



WGの開催状況

時期	部門	協議・検討内容
令和6年 4月	①全体検討会	【全体】再整備における基本方針
令和6年 6月 7月	①青果部 ①水産物部 ①花き部 ①関連事業者	【青水花】再整備のコンセプト・方向性 【青水花】目標取扱金額・数量 【関】規模・アンケート項目
令和6年10月	②青果部 ②水産物部	【青水】目標取扱金額・数量 【青水】必要機能
令和6年11月 12月	③青果部 ③水産物部 ②花き部	【花】目標取扱金額・数量 【青水花】必要機能 【青水】必要規模
令和7年 1月	③花き部 ②関連事業者	【花】必要機能 【花関】必要規模 【花】施設内動線 【関】再整備のコンセプト・方向性
令和7年 2月	④青果部 ④水産物部	【青水】必要規模 【青水】施設内動線
令和7年 3月	②全体検討会	各部門の進捗状況 「集約化・高度化・複合化」の考え方

計15回のWGを開催

7.各部門コンセプト・必要機能について



(1) 青果部

再整備のコンセプト

立地条件を生かし、物流のストックポイントとして東葛・千葉・北関東・東北産農産物の**集荷機能向上**と、労働力の集積を生かし**流通加工機能**を備えた拠点化

コンセプト実現に向けたキーワード

施設整備の方向性

1. 何より最優先すべきは物流（動線）の効率化

2. 近郷産地をはじめ立地を活かした集荷機能向上

3. 市場間連携による中継集荷拠点化

4. 周辺環境を活かした労働集積型の流通加工機能の強化

5. 流通加工機能を活かした量販店や業務用納品の需要の取り込み

6. 産地やマーケットのニーズに即したパッケージや温度管理の実現

7. 用地の高度利用による集荷力・販売力強化等市場活性化

8. シェアリングと用地の高度利用によるコスト削減への取組

A) 簡素で効率的な動線の確保

B) 集荷機能向上に資する荷下ろし環境改善

C) 出荷環境の改善

B) 集荷機能向上に資する荷下ろし環境改善

D) 転配送を円滑に行うための施設・規模の設定

E) 流通加工機能の充実

E) 流通加工機能の充実

F) ニーズに即した温度管理施設の拡充

G) 用地の高度利用による地域量販店等の需要の取り込み

H) シェアリングによる効率的な施設の活用

I) 用地の高度利用による整備に伴う負担増削減

7.各部門コンセプト・必要機能について



(2) 水産物部

再整備のコンセプト

荷捌き環境改善や冷蔵冷凍庫の強化、流通加工への対応等により**集荷・出荷力を向上**させ**量販対応を強化**することを重視しつつ、親しまれる市場を目指し業務用仕入に加え**一般消費者へも対応**出来る施設化

コンセプト実現に向けたキーワード

1. 雨風をしのぎ品質管理ができる荷捌きスペースの確保

2. 冷蔵冷凍庫の強化による冷凍品、加工品のストックポイント及び量販への供給拠点化

3. 流通加工機能を活かした量販店の需要の取り込み

4. 用地の高度利用による販売力強化

5. コスト削減への取組（用地の高度利用やシェアリング）

6. 一般消費者需要を見越したバリアフリー化と安全・防犯面への考慮

施設整備の方向性

A) ウイング車に対応できる入荷施設の底
B) 低温卸売場の充実
C) 低温荷捌きの拡充（動線整理含）

D) 集荷力強化につながる冷蔵庫の整備（市場外の受け入れ）
E) 出荷力強化につながる冷蔵庫の整備（品質及び品目）

F) 出荷力向上・量販対応強化につながる流通加工施設の拡充
G) 用地の高度利用によるプロセスセンター・セントラルキッチン等需要取り込み

H) シェアによるコスト削減
I) 高度利用による整備に伴う負担増抑制

J) 量販・一般動線整理
K) 一般消費者受け入れ態勢

7.各部門コンセプト・必要機能について



(3) 花き部

再整備のコンセプト

物流・流通構造の変化に対応した施設整備と温度管理と多様な加工が行える施設への転換による機能強化及び運用面も含めた**フレキシブルな施設化**

コンセプト実現に向けたキーワード

施設整備の方向性

1. 物流構造の変化に対応した集荷保管施設

A) ネットワークを活かした集荷を想定した施設
B) 卸業者の保管用冷蔵庫の強化

2. 流通構造変化に対応した物流の改善

C) 将来の需要を見越した加工・保冷施設の再編成

3. 労働環境・せり環境改善に向けた室温設定

B) 卸業者の保管用冷蔵庫の強化
D) 温度管理がされた閉鎖型施設
E) 保管や加工後の予冷等にも対応できる冷蔵庫の強化

4. 保管・保存環境の強化

C) 将来の需要を見越した加工・保冷施設の再編成

5. 加工環境の最適化

F) 仲卸の加工用スペースの確保
G) 取扱金額拡大に向けた加工業者の誘致

6. 用地の高度利用による販売力強化

G) 取扱金額拡大に向けた加工業者の誘致

7. タイムシェアリングと高度利用によるコスト縮減

H) シェアリングによる効率的な施設の活用
I) 高度利用による整備に伴う負担増抑制

7.各部門コンセプト・必要機能について



(4) 関連・サービス店舗

再整備のコンセプト

市場機能の充実のための業務に加え、**一般消費者等にも開かれた業態化**を目指す

コンセプトにおけるキーワード

1. 業務用取引や一般消費者の買い回りを考慮したゾーニング

4. エレベーターの設置

2. 物流動線の改善

5. わかりやすいサイン計画及びバリアフリー化

3. 活性化促進のための新規事業者の入場

6. 棟内のトイレ整備

市場の活性化に向けて、現状のままの施設を再整備をするのではなく、必要に応じた物流の改善や品質管理等の機能強化を行う。また、一般消費者への販路拡大等の**消費者・市民に親しまれる市場化**を目指す。

そのために、機能の充実としてエレベーター設置やバリアフリー化、トイレ設置等を行い**場内事業者・実需者等含む利用者両者**にとって**利便性の高い施設**を目指していく。

8.次回の予定



■次回の予定について

市場施設規模の算定，施設内動線の作成，市場用地活用の方向性

検討における基本方針を基に，各部門のコンセプト・必要機能を踏まえた上で，市場施設規模の算定・施設内動線の作成・市場用地活用の方向性について検討予定です。

★ 8月を予定していますので、改めて次回の日程調整のご協力をお願いします。

■次回以降の予定について

★令和8年1月予定

諮問

事業手法の整理，整備スケジュールの作成，施設配置の作成

★令和8年3月予定

答申